

弥勒寺・宇佐神宮複合施設の影響は八幡神社が日本中に広がり始まるにつれて大きくなった。しかしそれは長続きするものではなかった。統一された神道・仏教の神社・寺という複合施設が荘園制度で国東半島の地域の多くを管理していたが、弥勒寺・宇佐神宮の政治的な妥当性は、日本の政治権力が鎌倉時代(1185－1333)に鎌倉に移ったときに衰え始めた。統治している源氏が八幡を守護神と指定したが、彼らは新しい神社を鎌倉に建立し、それは鶴岡八幡宮として知られている。(京都の御所の近くにある) 石清水八幡宮と呼ばれるもう一つの八幡の神社と共にこれら二つの神社は政権の座の近くにあった。そして弥勒寺・宇佐神宮はこれに比べ遠方にあった。八幡が日本ではまだ幅広く崇拝される神のひとつであるが、今日宇佐神宮は政治支配と言うよりは名誉という地位を有している。